

## 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

### 【PLAN】

#### 事務事業の目的と成果

事業名	<b>看護師確保事業（看護学生修学資金貸与事業）</b>				事業期間	平成 28 年度 ～ ー 年度								所管課係	市立病院管理課職員係
事業性区分	新規・継続	新規	建設・建設外	建設	第6期総合計画の位置付け	2-6-2	他に関連する基本事業	ー	ー	ー	ー	ー	ー		
目的 (何のために実施するのか)	「医療を核としたまちづくり」として将来砂川市立病院で看護師として従事しようとする者に対し、知識と技能の習得に必要な資金（修学資金）を貸付け、優秀な人材の確保を目的とする。						手段 (どのような方法で実現するのか)	養成施設の在学者に対し、卒業後に砂川市立病院で勤務することを条件に、就学に必要な資金を貸与し、卒業生の市内就業の促進を図る。（貸与した期間動めれば、返済免除とする）							
対象 (誰・何を対象としているのか)	将来砂川市立病院に勤務を希望する看護師養成施設の在学者。						成果 (どのような効果が得られるのか)	修学資金の有効な活用により、看護師のI・U・Jターン促進による地元密着を図り、地域医療体制の充実はもとより人口減少の一助とする。							
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）	平成28年度から、貸与した期間を動めれば返済免除となる新制度を開始し、看護師の確保を図る。														

### 【DO】

#### 実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	一 般 財 源	計 画 額				0				0	36,720,000	37,800,000	37,800,000	37,800,000	150,120,000	150,120,000
		予 算 計 上 額				0				0	36,720,000	40,680,000	36,720,000	31,380,000	145,500,000	145,500,000
		実 績 額				0				0	34,050,000	31,500,000	30,990,000	32,370,000	128,910,000	128,910,000
事 業 費 合 計	計 画 額	0	0	0	0	0	0	0	0	36,720,000	37,800,000	37,800,000	37,800,000	150,120,000	150,120,000	
	予 算 計 上 額	0	0	0	0	0	0	0	0	36,720,000	40,680,000	36,720,000	31,380,000	145,500,000	145,500,000	
	実 績 額	0	0	0	0	0	0	0	0	34,050,000	31,500,000	30,990,000	32,370,000	128,910,000	128,910,000	
事業費予算の内容	3年生 32名 2年生 35名 1年生 35名										3年生 33名 2年生 35名 1年生 35名 助産師 2名		3年生 30名 2年生 29名 1年生 32名 助産師 2名		3年生 25名 2年生 23名 1年生 30名 助産師 2名	
	前年度予算との比較 (増減理由)										平成30年度より助産師学資金貸付制度の開始により増額		修学資金貸付制度の利用者減による減額		修学資金貸付制度の利用者減による減額	
	実績との比較 (増減理由)										貸付人数が当初予定を下回ったことにより減額		助産師学資金貸付制度の利用者無しによる減額		看護師の修学資金貸付制度の利用者減による減額	

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: 修学資金貸与者数		指標の求め方: 3年生修学資金貸与者																						
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: 砂川市立病院への就業者数		指標の求め方: 修学資金貸与者の砂川市立病院への就業者数																						
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値																	30	30	30	30			
		実績値																			30	34	38	23		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値																			30	30	30	30		
		実績値																			28	19	19	14		
	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)																								達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)																									変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)																									少し上がっている
	総合評価																									良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析: 計画値に対し就業者の実績は届かなかったものの、看護職員は概ね確保されている状況。卒業生の市内就業促進対策・人口減少対策の一助として有用。	自己分析: 計画値に対し就業者の実績は届かなかったものの、助産師を除く看護師は概ね確保された状況。卒業生の市内就業促進対策・人口減少対策の一助として有用。	自己分析: 計画値に対し就業者の実績は届かなかったものの、助産師を除く看護師は概ね確保された状況。卒業生の市内就業促進対策・人口減少対策の一助として有用。助産師修学資金貸与制度の了解しました。利用者がおり、来年度以降は助産師の確保が期待できる。	自己分析: 退職者数が減少しており、計画値に対し就業者の実績は届かなかったものの、助産師及び看護師は概ね確保された状況。卒業生の市内就業促進対策・人口減少対策の一助として有用。	判断理由: 修学資金貸付制度の利用者自体は減少傾向にあるものの、制度を利用した看護師が離職せず定着してきていることから、看護職員確保対策としての目標を達成する一助として有用。											
	今後の方向性																									現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25:				H28:				H30: 一定の成果が出ていることにより、今後においても継続する事業と考える。																



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: 連携自治体病院数				指標の求め方: 年度末連携自治体病院数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: 登録患者数 (同意取得患者数)				指標の求め方: 年間実登録患者数 (同意取得患者数)								
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値								6	6	6	6	
		実績値								6	6	6	6	
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値								360	360	360	360	
		実績値								874	1666	1607	1638	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													上がっている
	総合評価													極めて良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析: 登録患者数は計画値を上回り、順調に増加している。	自己分析: 登録患者数は計画値を上回り、順調に増加している。	自己分析: 登録患者数は計画地を上回り、順調に増加している。	自己分析: 登録患者数は計画地を上回り、順調に増加している。	判断理由: 登録患者数は計画値を上回り、順調に増加している。
今後の方向性														現状のまま継続
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25:				H28:				H30: ネットワークシステムを利用することにより、紹介・逆紹介時や救急搬送時に迅速に的確な情報収集することが可能となった。今後も登録患者数を増やしていく。					



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: ネットワーク参加施設数								指標の求め方: 年度末参加施設数						
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: 参照件数								指標の求め方: 件/年						
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値							42	42	42	42			
			実績値							52	53	52	52			
	成果指標 1 (単位/件/年)	計画値								10,000	10,000	10,000	10,000			
		実績値								15,745	17,845	21,866	25,198			
	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)														上がっている	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)														少し上がっている	
	総合評価														良好である	
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析: 参加施設数、参照件数ともに計画値を上回っている。	自己分析: 参加施設数、参照件数ともに計画値を上回っている。	自己分析: 参加施設数、参照件数ともに計画値を上回っている。	自己分析: 参加施設数、参照件数ともに計画値を上回っている。	判断理由: 参加施設数、参照件数ともに計画値を上回っている。	
	今後の方向性														現状のまま継続	
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25:				H28:				H30: 目標値は達成しているが、事業所により参照件数が大きく異なる現状から、参照件数の少ない事業所が参照利用するよう取り組みを進める。						



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：ネットワーク参加施設数				指標の求め方：年度末参加施設数						
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：紹介件数				指標の求め方：紹介件数						
指標	活動指標 1 (単位/箇所/延)	計画値	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30
	実績値		10	10	10	10	10	10	33	10	10	10
成果指標 1 (単位/件/延)	計画値		5,100	5,150	5,200	5,250	5,300	5,350	5,400	5,450	5,500	5,500
	実績値		5,254	5,396	6,224	6,410	6,286	6,324	6,460	7,136	7,456	6,607
事業内容評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている			ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている				少し上がっている			上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている				少し上がっている			少し上がっている
	総合評価				普通である				普通である			普通である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：ネットワーク参加病院が現状維持であった。宣伝広報活動を強化する。	自己分析：ネットワーク参加については、医療圏内での広報周知及び訪問による参加要請などを実施した。紹介数については、情報の共有を強化していることから増加傾向にある。	自己分析：ネットワーク参加数の拡充を図り、参加要請と説明を実施しているが、現状のままとなった。紹介数については、医療機関との情報共有を積極的に強化していることから、増加している。	判断理由：ネットワーク参加に関しては、連携先の諸事情があるため、単純には増えない状況にあるが、今後も粘り強く周知活動等を推進していく。また、紹介に関しても、逆紹介の強化も並行して実施する必要がある。	自己分析：ネットワーク参加数の拡充を図り、参加要請と説明を実施しているが、現状のままとなった。紹介数については、情報の共有を強化していることから増加している。新たなネットワーク構築に向けて医師会、薬剤師会、福祉会等の連携機関と協議中である	自己分析：ネットワーク参加数の拡充については、新たなネットワークシステムを構築しているため現状のままとなった。紹介に関しては、医療機関と情報共有を強化しているが、前年度と比較すると若干減少している。ただし、計画値と比べると増加している。	自己分析：ネットワーク参加数の拡充については、新たなネットワークシステムを構築したため現状のままとなった。紹介に関しては、医療機関と情報共有を強化していることから前年度と比較すると若干増加しており、計画値と比べても増加している。	判断理由：現在、市内の医療機関等とはICTを活用し情報共有ができるようになっており、H28年度には中空知の自治体病院と情報共有が可能となる。今後、それらを利用し新たなネットワークシステムを構築する予定であるため、現状のシステム参加数を拡大していく。また、紹介患者については、システムの利用やかかりつけ医の促進などにより、今後も増加させる必要がある。	自己分析：ネットワーク参加数については、主に中空知の医療機関の参加を募集し、大幅に増加となった。紹介件数もそれに伴い、情報共有を強化していることから増加している。	自己分析：ネットワーク参加数については、新たなネットワークシステムを構築したため現状のままとなった。紹介に関しては、医療機関と情報共有を強化していることから前年度と比較すると若干増加しており、計画値と比べても増加している。	自己分析：ネットワーク参加数については、新たなネットワークシステムを構築したため現状のままとなった。紹介に関しては、医療機関と情報共有を強化していることから前年度と比較すると若干増加したが、計画値は上回った。
今後の方向性				拡大				手段の見直し				現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：地域医療のネットワーク拡大については、各関係団体の協力が不可欠であることから、今後も地域医療の拠点病院としての役割として積極的に携わっていくことが重要である。				H28：市内の医療機関等とは、ICTを活用し情報共有ができるようになっており、H28年7月1日には中空知の自治体病院と情報共有が可能なネットワークシステムが稼動する。今後、市内及び中空知地域におけるネットワークシステムを拡充し、地域包括ケアシステムを構築することが重要である。				H30：紹介件数を増やすためにも、今後もネットワーク参加医療機関数を増やしていく取り組みを継続する。			



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名: コンテンツ更新				指標の求め方: 年間更新数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名: アクセス数				指標の求め方: 年間アクセス数								
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	50	50	50	70	70	70		100	100	100	100	
		実績値	45	34	35	50	51	60		323	340	172	336	
成果指標 1 (単位/件)		計画値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	90,000		90,000	100,000	100,000	100,000	
		実績値	86,700	78,279	158,456	191,262	191,394	174,997		192,039	228,487	254,114	305,948	
事業 評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない				ほぼ達成されている					達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない				少し上がっている					上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)								少し上がっている					上がっている
	総合評価				問題がある				良好である					良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: コンテンツの更新内容に関しては、各部門に依頼している状況であるが、部門への働き掛けを実施し、コンテンツ更新は実施できている。なお、HPを次年度にリニューアル予定なので内容等を充実させアクセスし易いHPにしていきたい。	自己分析: コンテンツの更新については各部門に依頼し最新情報に更新するよう働きかけを強化する必要がある。また、HPはコンテンツの追加・増設により配置等の統一性に欠け、分かりづらくなったため、専門業者によりリニューアルし、見栄え・内容・アクセスしやすいHPとなった。	自己分析: コンテンツの更新については、各部門に依頼し最新情報にするよう働きかけを強化する必要がある。掲載内容の方法がPDFによる方法に偏っていたため、掲載内容によっては独自のページを作成するなどしてアクセス利用者の拡大を図る。	判断理由: コンテンツの更新については、各部門に最新情報とするよう働きかけを強化し、HPはリニューアルしたもののアクセス数が伸びていないため更なる工夫が必要と考える。	自己分析: 更新回数を増やしたことがアクセス数の増加につながっている。しかし現HP構成では医療関係者や医学生・看護学生に対する情報提供の不十分と問い合わせフォーム未設定のため利用者の期待に応えられていない。来年度から新HPになるため問題は解消されていくと期待している	自己分析: HPのリニューアルによりスマートフォン対応化と閲覧環境の改善を図ることができた。また、動画を用いた診療PR動画を外部業者に製作依頼し、掲載することができた。しかし、年間アクセス数は前年度並みに止まった	自己分析: 年間アクセス件数が前年度を下回る結果となった。アクセス数回復のため、トップページの改修や見直しが必要である。また、看護部・臨床研修医サイトのトピックス掲載を増やすことや、看護専門学校とのコンテンツ追加などで、医療関係者・学生への情報提供を充実させる必要がある	判断理由: HPのリニューアルにより、看護部及び研修医サイトを新たに作成したことに伴い、看護師募集・研修医募集等に関して有効であった	自己分析: 年間アクセス件数が前年度を大幅に上回り、20万回を大きく超える結果となった。昨年引き続き、診療内容の定期的更新や(年1回、全院)病院行事の様子をこまめに掲載したことも増加した一要因と分析する。	自己分析: 年間アクセス件数が前年度を大幅に上回り、30万回を超える結果となった。昨年引き続き、診療内容や行事等の定期的な更新や新型コロナウイルス感染症に関連した対応等を掲載したことが増加した要因と分析する。	自己分析: 年間アクセス件数が前年度を大幅に上回り、30万回を超える結果となった。昨年引き続き、診療内容や行事等の定期的な更新や新型コロナウイルス感染症に関連した対応等を掲載したことが増加した要因と分析する。	判断理由: 計画初年度から3倍弱のアクセス数となり、一定程度の到達と認識している。今後、どの程度アクセス数が伸びるか未定であり(伸びない可能性も否定できない)、現在のアクセス数を維持できればと考えている。	
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25: HPの内容について、市民や患者を対象とした病院行事や市民講座の開催のお知らせを今後、積極的に掲載する。				H28: これまで以上、地域住民・学生・医療関係者等に対し、最新の情報をいち早く提供し、コンテンツの更新については、管理体制を強化し充実を図る。				H30: ホームページは有用な情報発信手段として今後も管理運営体制を維持していく。ただし、ホームページを見ない層には無力である。(対処方法はない)					



【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：発行部数				指標の求め方：年間発行部数										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：設置場所数				指標の求め方：施設外設置場所数										
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/部)	計画値	10,000	10,000	10,000		11,000	11,000	11,000		12,000	12,000	12,000	12,000	
		実績値	10,000	10,000	10,000		10,000	10,000	10,000		11,300	11,300	11,300	11,000		
	成果指標 1 (単位/箇所)	計画値	3	3	3		5	5	5		7	7	7	7		
		実績値	4	4	5		6	6	6		25	27	27	27		
	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている					ほぼ達成されている					ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている					変わらない					変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている					変わらない					変わらない
	総合評価					良好である					良好である					良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析：年4回「春・夏・秋・冬」の定期発行を行い、発行部数についても当初の計画通り実施できた。また、院外の設置場所についても増設することができた。	自己分析：前年同様評価	自己分析：院外の設置は市内の公共施設を中心に配置してきたが、今後中空知の地域医療連携病院に配置して、より多くの方、より広い地域の方にも当院の診療及び医療情報を提供していく必要がある。	判断理由：年4回「春・夏・秋・冬」の定期発行が出来、発行部数についても当初の計画通り実施できた。更には院外の設置場所についても増設することができた。また、広報紙の内容についても充実させてきている。	自己分析：院内のほか院外の設置は、市内公共施設、公共交通機関、地域の医療機関・調剤薬局、金融機関に配置するなどして、より多くの方、より広い地域の方にも当院の診療及び医療に関する情報を届けることができた。設置場所を当初の3箇所から6箇所に増やすことができた	自己分析：春号は年度の初めで、医師の入れ替わり時期ということもあり、在庫切れが発生した。冬号は新年号という位置づけであるため好評であった。	自己分析：市内の金融機関の他、市外(中空知)の一部金融機関にも配置した。今後は設置できていない各種機関への配置を行い、病院情報を発信したいと考えている	判断理由：単価のアップにより予定通りの増刷はできなかったが、年4回の定期発行ができた。	自己分析：平成29年度末現在、院外では25ヶ所の設置となった。この他に、H30年度は市内町内会長(86件)、ジョブスタ応援企業(30件)に毎号送付することとし、読み手にとってもらえ「手にとってもらえる」状況を作り出している。	自己分析：院外では27ヶ所の設置となった。この他に、H30年度は市内町内会長(86件)、ジョブスタ応援企業(30件)に毎号送付することとし、読み手にとってもらえ「手にとってもらえる」状況を作り出している。	自己分析：院外設置箇所は前年度同様。令和元年度から新たに13団体と砂川高校、市内小中学校7校に毎号送付することとし、より多くの地域住民等に読む機会を拡大を図り好評を得ている。	自己分析：院外設置箇所は前年度同様。令和2年度から新たに介護施設やデイサービス事業所等(16件)に毎号送付することとし、より多くの地域住民等に読む機会を拡大を図り好評を得ている。	判断理由：発刊前には広報誌委員会を開催し、それぞれの時期に合った「病気の話」や「忘れられない看護エピソード」など、記事の内容も好評を得ている。	
	今後の方向性					現状のまま継続					現状のまま継続					現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25：発行部数及び設置場所数においても指標に達しており成果が得られている。今後も内容がマンネリ化せず、様々な医療情報を発信し開かれた病院を目指す。				H28：地域の基幹病院であるため、今後も掲載内容等の見直しを図り、これまで同様に病院情報、医療情報を地域住民に発信する。				H30：情報発信は重要である。発行部数は指標に達していないものの、設置場所数は大幅に増加させた。また、新たな取組として町内会長(町内会での回覧は会長の任意)、ジョブスタ応援企業に毎号送付し、読んでもらえる環境を拡大しながら、記事についても時事的な要素を取り入れ、マンネリ化しないよう編集を行いたい。						